

東京2020オリンピック・パラリンピック 馬術競技会場紹介



JRA馬事公苑・2019年10月15日撮影

取材・文=PRC 撮影・写真=山本輝一

JRA馬事公苑

世田谷区弦巻に立地するJRA馬事公苑では、今年7月に開幕する東京2020オリンピック・パラリンピックの馬術競技開催に向け、2017年より施設整備工事を行っています。昨年の8月にはオリンピックのテストイベントが開催され、当協会でも10月23日に役員19名が視察に訪れました。このコーナーでは、全面改修された馬事公苑内の施設と、クロスカントリー競技（総合馬術）が行われる海の森クロスカントリーコースを、ご紹介いたします。

（10月23日取材）

1940年9月に開苑した馬事公苑は、戦後、「騎手の養成」や「馬事振興と馬術の奨励」などを軸に運営され、1964年には東京オリンピックの馬場馬術が開催されるなど、日本の馬術普及や馬事振興に大きな役割を担ってきました。

騎手養成業務については、JRA競馬学校（1982年設立）に移管されましたが、先のオリンピック後も馬術競技の開催や馬と触れ合うことのできる憩いの場として親しまれてきました。

現在は、施設整備工事のため休苑中ですが、今年7月にはオリンピック・パラリンピックの馬術競技が開催。そして2022年秋には、生まれ変わった馬事公苑がオープンする予定です。

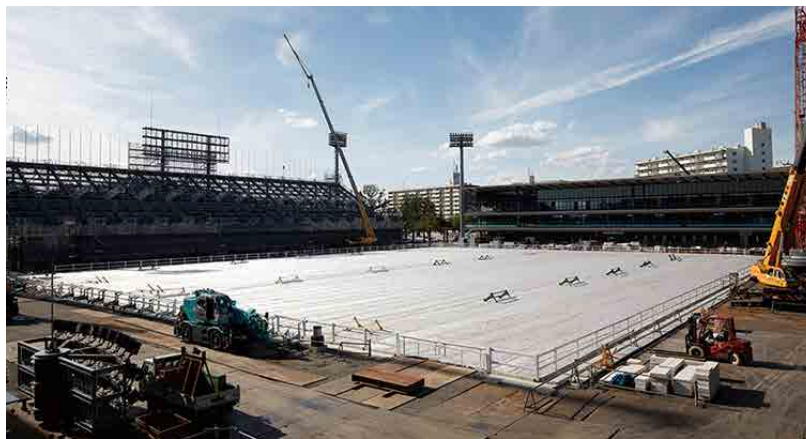


東京2020大会時

©Tokyo 2020

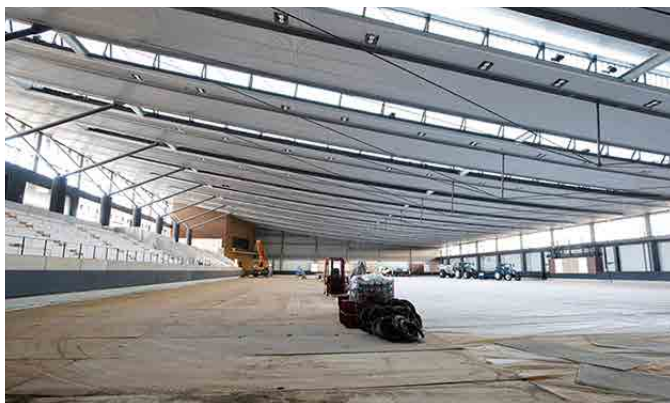
メインアリーナ

周りを囲む観覧席は、高さ25mの仮設スタンドを含め、約9500名の観客を収容可能。高さ30～35mの照明を8本設置しており、今回のオリンピックでのナイトー競技に対応可能です。大会本番に向け、競技や成績を映す大型ビジョンも設置予定。なおオリンピック後、仮設スタンドは撤去されます。



インドアアリーナ

メインアリーナに隣接した屋根付きの馬場。オリンピック開催時は、クールダウンや練習・調整場所として使用予定。屋根に勾配をつけ、夏でも通気がよく、安定したコンディションで競技・練習ができます。



砂

オランダから船便で輸入した粒子の細かい砂に、フェルトやファイバーを混ぜ込んだ特殊な馬場です。競技中、馬は様々な動作をするため、脚が流れないように、フェルト等で水分を保ち、グリップの効く馬場となっています。



JRA

厩舎

従来の厩舎をすべて解体し、昨年8月のテストイベントに合わせ7棟を新築しました。1棟の馬房数は40（計280馬房、大会時には計320馬房）で、国際大会で実績のある海外製のものを使用しています。馬房の大きさは12㎡。通路の幅も4mあり、開放感のある広い作りとなっています。



暑熱対策

オリンピックの開催時期が夏の一番暑い時期のため、厩舎全体を冷却するエアコンが仮設で設置されています。



クーラーが稼働すると、冷気が天井付近に設置された白い筒状のものを通り排出される

クロスカントリー練習場

もともとアップダウンのあったエリアを改修し、オリンピック開催中はクロスカントリーの練習場、その後は3kmのクロスカントリーコースとなります。憩いの広場としてだけではなく、競技やトレーニングにも使用できるエリアとなりました。



フォレストパスに新設されたツリーハウスとウォークデッキ

JRA

フォレストパス

障害者や高齢者の方々も移動しやすいよう、高低差を修正。利用者すべての方が日常的に活動しやすいような環境に整えました。また、来苑者がより楽しめるよう、ウォークデッキやツリーハウスなどが新設されました。

防災対策

東京都から広域避難場所として指定されていますが、大雨対策として7カ所に貯水槽を設置するなど、将来懸念されるような自然災害への対策を強化しています。

海の森クロスカントリーコース

海の森公園(87.9ha)に設置された総合馬術のクロスカントリーが行われるコースです。お台場から海底トンネルを通過して5kmの場所に立地しており、大会当日は「東京テレポート駅」「新木場駅」からシャトルバスを運行する予定です。



日本馬術連盟



©Tokyo 2020

クロスカントリーは、総合馬術の2種目に行われる競技で、人馬一体となって、広大な自然に設置された大きな障害をクリアしていく競技です。オリンピック大会時は、全長5700mのコースに、38~42の飛越ポイントが予定されています。